

第 13 期（2024 年度）事業報告

2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日

事業報告書

1. 事業概要

1. 1 はじめに

2012 年（平成 24 年）9 月 26 日に財団を設立した。設立の背景に 1990 年代から低迷してきた日本経済を成長軌道に乗せられないかがあった。また、技術経営学の研究成果を、経営人財の育成に生かすことが財団設立の狙いでもあった。「豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目的とする」を定款に掲げている。

日本は、1990 年から低成長軌道へとシフトした。それを「失われた 30 年」とも言う。低成長の原因を以下の 4 点に整理した。

- （1）配当重視の経営と日本の経営者に外圧が掛かり、利益を出すために、設備投資も研究開発投資もやめた、
- （2）国の政策にも外圧が掛かり、国家プロジェクト、学術投資に力を入れなくなった、
- （3）企業は、出た利益を配当と役員給与に回し、余剰資金は内部留保にした、
- （4）非正規社員を競争力強化として制度化し、格差社会を日本の中に作った、日本の賃金水準は低くなり、国内消費を低調にして日本は貧乏な国になった。

日本を豊かにする経営学を研究する

前年度から「風の時代を読む研究会（座長森下あや子）」に取り組んできた。第 2 回の研究会の中で萩原伸次郎横浜国立大学名誉教授から「失われた 30 年」、「それは外圧だよ」と教えられ、日本の低成長の原因が分かった。経済学的重要性を知り、9 月に取り組みを開始した「経営学と経済学とをつなぐ研究」の原点がここにある。

今までの経営学は欧米が主導してきた「地の時代」の「日本型経営」であった。「風の時代」における「日本型経営」を整理することが研究課題となった。風の時代の経営者は、自らが光となって、愛を持って物事にあたり、真実に向けて社員の幸福を実現し、安全で安心な社会をつくりに取り組むことだ。

1. 2 主要な事業

財団は中小企業の経営者に視点を移し、5 つの主要な事業に取り組んだ。

- （1）西河技術経営塾（実践経営スクール代々木校 12 期：修了生 4 名）
- （2）西河技術経営塾（実践経営スクール沼田校 6 期：修了生 4 名）
- （3）敬愛大学・寄付講座 8 期「西河「技術経営学」入門」：修了生 24 名）
- （4）風の時代を読む研究会
- （5）経営と経済をつなぐ研究

2. 西河技術経営塾

2. 1 西河技術経営塾・実践経営スクール（代々木校、沼田校）の概要

西河技術経営塾は、「実践経営スクール」とも言い、実務ですぐに役立つ実践的な経営を学ぶ場である。おもに中小企業の経営者が受講してきた。塾で技術経営学を教え、豊かな社会づくりに取り組むことができる経営人財を育成してきた。

西河技術経営塾で取り組んでいる演習は、講義で学んだことを、塾生が現状取り組んでいる実際の経営に生かすための取り組みである。あらかじめ宿題として準備してある課題に取り組み、原則次回の演習のなかで塾生から報告を受ける。

演習を通して、座学での学びを塾生の会社の個別経営課題に置き換えることで、実際の経営課題の解決ができる。演習の中で、経営者の経営マインドの変更に取り組み、経営者育成と、企業業績を飛躍的に向上させるなどの成果を上げてきた。

12期の代々木校（2025年9月4日開塾）と6期の沼田校（2025年3月9日開塾）は、西河洋一、小平和一郎、松井美樹、小坂哲平、長谷川一英の5名が講師を担当した。

- （1）売上を10倍にする西河技術経営学を学び、雇用を増やし、税金を払う、
- （2）お金は企業の血液であることを学ぶ、
- （3）実践的思考、変革的思考を塾生参加型で学習する、
- （4）日本的技術経営研究の成果に基づいた体系化されたカリキュラムで学ぶ、
- （5）自社の経営課題を題材にし、明日から使える実践的な経営を学ぶ。

2. 2 西河技術経営塾・実践経営スクール（代々木校 12期）

代々木校の第12期生は、2024年9月4日に開塾し、2025年3月12日に修了した。

修了証授与式は、日本工業倶楽部で行った。五十嵐寛記 DSP(株)取締役、根岸尚登ダイヤロン(株)取締役、山手信彦(株)清四郎代表取締役、藤本直美あわなみ不動産(株)代表取締役社長の4名が修了した。五十嵐寛記、根岸尚登の2名に優良賞を授与した。

（1）開催日程

本実践経営スクールは、24回開催した。原則、毎週水曜日に開講し、1日の構成は前半の18時～19時30分を座学に、後半の19時40分～21時10分を演習に取り組んだ。

（2）第12期の講義実績

（第1章）2024年09月04日、技術経営とは何か（小平）

演習：自己紹介と会社案内。塾で学びたいことを報告する。

（第2章）09月11日、企業文化とアイデンティティ（小平）

演習：自社の現状の問題と課題を報告するとともに、SWOTを作成する。

（第3章）09月18日、ビジネスモデルづくりを学ぶ（小平）

演習：現状の経営理念、目標とする企業、自社の技術的強みを報告する。

（第4章）09月25日、企業財務入門（小平）

演習：自社のビジネスモデルを分析する。

（第5章）10月02日、モノづくりとコトづくり（小平）

- 演習：自社の財務諸表を報告する。
- (第6章) 10月09日、中小企業のブランド構築戦略(小坂)
- 演習：自社の事業計画(売上、利益)を報告する。
- (第7章) 10月16日、コストハーフ戦略(小平)
- 演習：自社のブランド戦略を立案する。
- (第8章) 10月23日、新規の市場を創生する(松井)
- 演習：自社の原価低減、経費削減策を報告する。
- (第9章) 10月30日、サービスビジネス(松井)
- 演習：自社の新規の市場創出戦略を立案する。
- (第10章) 11月06日、イノベーション戦略(長谷川)
- 演習：自社のサービスビジネスについて報告する。
- (第11章) 11月13日、収益モデルに基づいた中長期戦略(小平)
- 演習：自社のイノベーション戦略を立案する。
- (第12章) 11月20日、中小企業のDX戦略(小平)
- 演習：自社の中長期戦略を立案する。
- (第13章) 12月04日、西河技術経営のルーツを学ぶ(西河)
- 演習：西河技術経営に関する質問を準備する。
- (第14章) 12月18日、西河洋一の経営哲学(西河)
- 演習：経営哲学に対する意見交換をする。
- (第15章) 11月27日、エンジニアリング・ブランドづくり(小坂)
- 演習：自社のDX戦略を立案する。
- (第16章) 2025年01月08日、グローバル経営戦略(小平)
- 演習：自社のエンジニアリング・ブランド戦略を立案する。
- (第17章) 01月15日、財務諸表で企業実態の分析(小平)
- 演習：世界に残された日本をどう見る。
- (第18章) 01月29日、プロジェクトマネジメント(小平)
- 演習：自社の経営実態を財務データで分析し、改善策を報告する。
- (第19章) 02月05日、中小企業のERP戦略(小平)
- 演習：自社のプロジェクト計画を立案する。
- (第20章) 02月12日、論文の書き方(小平)
- 演習：自社のERP戦略を立案する。
- (第21章) 02月19日、組織マネジメント(小平)
- 演習：研究報告書のテーマの設定と研究報告書の概要レビュー
- (第22章) 03月05日、人財育成と設備投資(小平)
- 演習：研究報告書審査会
- (課題発表会) 03月12日、修了式(日本工業倶楽部)

(3) 受講料 受講料は、17万円とした。

2.3 西河技術経営塾・実践経営スクール（沼田校6期）の開塾状況

沼田校の第6期生は、2025年03月29日に開塾し、2025年07月26日に修了した。

小坂哲平（代々木校5期生）が、塾の進行を担当した。小坂は講義に向けて「予習・復習」の時間を設け、塾生を指導した。

審査会を行い、大脇浩介株式会社新生孔版代表取締役、大山英明小坂建設株式会社取締役、塚田晃一小坂建設株式会社課長、目黒 優介小坂建設株式会社課長の4名が修了した。4名全員に優良賞を授与した。

（1）開催日程

（第1日）2025年03月29日、開講にあたって（西河）、

（第1章）技術経営とは何か（小平）、

（第2章）企業文化とアイデンティティ（小平）

演習：自己紹介と会社案内。塾で学びたいこと。

（第2日）04月05日、

（第3章）ビジネスモデルづくり（小平）、

（第4章）企業財務入門（小平）

演習：現状の問題と課題を報告するとともに、SWOTを作成する。

現状の経営理念、目標とする企業、自社の技術的強みを報告する。

（第3日）04月12日、

（第5章）モノづくりとコトづくり（小平）、

（第6章）中小企業のブランド構築戦略（小坂）

演習：自社のビジネスモデルを分析する。自社の財務諸表を報告する。

（第4日）04月19日、

（第7章）コストハーフ戦略（小平）、

（第8章）新規の市場を創生する（松井）、

演習：事業計画（売上、利益）を報告する。自社のブランド戦略を報告する。

（第5日）05月10日、

（第9章）サービスビジネス（松井）、

（第10章）イノベーション戦略（長谷川）

演習：原価低減、経費削減策を報告する。新規の市場創出戦略を検討する。

（第6日）05月17日、

（第11章）収益モデルに基づいた中長期戦略（小平）、

（第12章）中小企業のDX戦略（小平）

（第7日）05月31日、

（第13章）パワービルダーの家づくり戦略（西河）、

（第14章）西河洋一の経営哲学（西河）

（第8日）06月14日、

（第15章）エンジニアリング・ブランドづくり（小坂）、

（第16章）グローバル経営戦略（小平）

演習：中長期戦略を報告する。自社のDX戦略を報告する。

（第9日）06月21日、

（第17章）財務諸表で企業実態の分析（小平）、

（第18章）プロジェクトマネジメント（長谷川）

演習：エンジニアリング・ブランド戦略を立案する。

自社または商品の広告を作成する。

（第10日）07月05日、

（第19章）中小企業のERP戦略（小平）、

（第20章）論文の書き方（小平）

演習：自社の経営実態を財務データで分析する。自社のプロジェクト計画を立案する。

（第11日）07月12日、

（第21章）組織マネジメント（小平）、

（第22章）人材育成と設備投資（長谷川）

演習：研究報告書のレビュー。

（第12日）07月26日、品質管理とコンプライアンス（長谷川）

課題発表会・審査 修了式を行った。

（2）受講料 受講料は、17万円とした。

2.4 西河技術経営塾沼田校 経営セミナー（テーマ：日本再生のヒントが地方にある）

2025年5月31日（土）ホテルベラヴィータ（群馬県沼田市）にて、経営セミナーを開催した。30名が参加した。終了後、懇親会を開催し、名刺交換や意見交換を行った。

第1部 『1兆円企業を作り上げた成長戦略』 講師：西河理事長

社員わずか8名の会社を東証一部に上場させ、年商1兆円企業の社長になった西河の成長戦略と、その背景となる経営哲学を講演した。

第2部 『老舗企業の経営戦略』 講師：森下あや子日本経済大学大学院教授

講演では、長寿性と革新性を兼ね備えた地方の老舗企業の成功要因を解明し、持続可能な経営戦略の設計方法について解説をした。

第3部 パネルディスカッション『日本再生のヒントが地方にある』

パネリストとして、西河洋一一般財団法人アーネスト育成財団理事長、森下あや子日本経済大学大学院教授、小平和一郎アーネスト育成財団専務理事が登壇した。

司会進行を小坂哲平小坂建設(株)代表取締役が担当した。

2.5 西河技術経営塾ネット入門講座の開設（公益活動）の取り組み

今期は、新たな講座の開発は行わなかった。

3. 敬愛大学での寄付講座（8期目）

敬愛大学（三幣利夫 理事長）における『経営シミュレーションー西河技術経営学入門ー』と題する寄付講座は8期目を終えた。敬愛大学経済学部経営学科の学生に「技術経営」を教える。学生に経営を教えることは難しいが、経営の具現化手段として整理した「技術経営学」の内容が、「経営学」を理解するために役立つことが分かった。8年間の講義を通して、学生から学ぶことができた。財団の狙いは、「西河技術経営学」の再評価と学術研究の機会を得ることと、技術経営の「技術」をいかに分かりやすく伝えるかの教育実習の機会を得ることである。4月から始まる前期の火曜日の3限目に対面形式で行った。24名の学生が修了した。寄付講座の概要を以下に示す。

- （1）設置年度 令和7年度（2025年）4月～7月
 - （2）講座担当責任 アーネスト育成財団 専務理事 小平和一郎
 - （3）寄付者 一般財団法人アーネスト育成財団
 - （4）寄付金 百万円（年間）
 - （5）開講科目 経営シミュレーション（西河「技術経営学」入門）
 - （6）講座構成 『西河「技術経営学」入門』の章単位で講座を進める。（表1）
 - （7）担当講師 西河洋一、小平和一郎、浅野昌宏、杉本晴重
 - （8）期待する成果 日本企業にとって重要な「技術経営」という新しい概念を学習する。モノづくりやコトづくりに関連する学びを通じて、製造のみならずサービス業を含めて企業が保有する技術が、ビジネスの具現力になっていることを学ぶことが出来る。
- また、技術がビジネスをする上での、強みの源泉となっていることも学ぶ。

表1 「経営シミュレーション（西河技術経営学入門）」2025年講義日

No.	開講日	授業項目	授業内容	グループ討議テーマ		記 事
1回	4月15日	第1章 技術経営とは何か	技術経営における技術の役割と存在を理解する。	エンジニアリングとマーケティングの違いを語る。	小平	
2回	4月22日	第2章 企業文化とアイデンティティ	日本型経営、企業理念、企業の社会的責任。	日本型経営の強みを考える。	小平	
3回	4月29日	第3章 ビジネスモデルづくりを学ぶ	具体的な商品やサービスと顧客。収益見通し。	コンビニとスーパーの違いを語る。	小平	
4回	5月13日	第4章 商品開発の取り組み	商品企画書。収益づくり。	開発商品の市場調査の方法を提案する。	杉本	ゲストスピーカー
5回	5月20日	第5章 モノづくりを学ぶ	モノづくりの理解。製造原価の把握。	ミニテスト（1回目）：10点配分	杉本	ゲストスピーカー
6回	5月27日	第6章 西河技術経営学のルーツを探る	誠実な心と経営。企業成長を支える技術。	3問以上の質問事項を作り上げる。	西河	特別講義
7回	6月3日	第7章 サービスをビジネスにする	サービスの8Pとホスピタリティ。	製造業とサービス業の違いを考える。	小平	
8回	6月10日	第8章 ICTを活用した新規ビジネス	モノの流れが変わり、時空間を越えた商取引。	ICTを使ったビジネスモデルを報告する。	小平	
9回	6月17日	第9章 海外取引の基礎知識を学ぶ	国際ルールを学び、海外取引の要点を押さえる	海外に3年間転勤、どんな準備をする。	浅野	ゲストスピーカー
10回	6月24日	第10章 エンジニアリング・ブランドづくり	新規市場創生に役立つ技術のブランドを学ぶ。	ミニテスト（2回目）：10点配分	小平	
11回	7月1日	第11章 経営は未来学、中長期計画を立案する	技術開発計画、設備計画、販売計画、人材育成。	市場創生の方法を考える。	小平	
12回	7月8日	第12章 プロジェクトマネジメントを学ぶ	プロジェクトとは何か。計画の策定から終了まで。	コミュニケーションについて考える。	浅野	ゲストスピーカー
13回	7月15日	第13章 イノベーションを企画する技術経営	社会変革を起こす経営。非常識から常識に。	日本のイノベーション企業と事例を報告する。	小平	
14回	7月22日	第14章 マネジメントとリーダーシップの違い	組織管理。リーダー像。	マネジャーとリーダーの違いを説明する。	小平	
15回	7月29日	確認試験	講義全体の理解度の確認と評価。	確認試験：80点配分	小平	

4. 調査研究活動

4. 1 風の時代を読む研究会

財団は、新しい風に乗って新しい時代をつくれる経営リーダーの育成に取り組んでいる。実際どのような時代が到来するのか。「風の時代を読む研究会」をという研究会を座長に森下あや子（日本経済大学大学院教授）を迎えて、前年度の2024年5月30日に第1回の会合を開催した。

研究会のメンバーは、西河洋一理事長、森下あや子、吉池富士夫（芝浦工業大学理事）、長谷川一英（青山大学大学院非常勤講師、(株)E&K Associates 代表）、下斗米秀之（明治大学政治経済学部准教授）、小平和一郎専務理事の6名である。

日本は、1990年から低成長軌道へとシフトした。それを「失われた30年」とも言う。低成長の原因を以下の4点に整理した。

- （1）配当重視の経営と日本の経営者に外圧が掛かり、利益を出すために、設備投資も研究開発投資もやめた、
- （2）国の政策にも外圧が掛かり、国家プロジェクト、学術投資に力を入れなくなった、
- （3）企業は、出た利益を配当と役員給与に回し、余剰資金は内部留保にした、
- （4）非正規社員を競争力強化として制度化し、格差社会を日本の中に作った結果、日本の賃金水準は低くなり、国内消費を低調にしてしまい、日本は貧乏な国になった。

日本を豊かにする経営学を研究する

「失われた30年」を現象論的に追いかけて把握できても、研究の成果を実務で役立てることができてない。反省しなければならない。第2回の研究会の中で横浜国立大学名誉教授萩原伸次郎先生から「それは外圧だよ」と教えられ、いまの日本の低成長が意図的につくられたものと理解した。

「株主重視の経営」と教えられた時、その矛盾に気付けなかった。経済学的な視点で研究出来てなかった。経営者が学ぶ経済学の知識がある。「経営学と経済学とをつなぐ研究」の原点がここにある。今までの経営学の研究は、欧米が主導してきた。「地の時代」においては、「日本型経営」こそ重要であることに気付いた。「風の時代」における「日本型経営」に整理が研究課題になった。まさに、風の時代において経営者は、自らが光となって、愛を持って物事にあたり、真実に向けて社員の幸福を実現し、安全で安心な社会をつくりに取り組まなければならない。

第2回 2024年12月6日（金）

萩原伸次郎横浜国立大学名誉教授を迎え『ハリスはなぜトランプに敗れたのか』と題し、米国大統領選の終えた最新の米国経済の動向に関する講演を聞いた。

トランプは減税や規制緩和を掲げ、コロナ禍では2兆ドル規模の救済策を迅速に実施し、経済回復を演出した。石油増産や関税引き上げ、移民排斥などの保護主義的公約を再掲し、短期的効果を強調した点が支持を集めた。民主党が労働者層を軽視し、サンダースが提唱した社会保障・医療拡充策を取り込めなかったことが敗因と報告した。

最後に日本は、国家が経済設計の力を取り戻し、政府の機能を活かした政策を展開しなければ、貧乏な国になってしまうと警鐘を鳴らした。

第3回 2025年2月21日（金）

下斗米伸夫法政大学名誉教授を迎え、「プーチン政治 25 年とウクライナ和平」と題する講演を聞いた。

ロシア政治は、実は宗教が相当絡んでいる。トランプ再登場により米露関係改善と停戦・制裁解除の可能性が高まっているという。ウクライナ戦争は、非軍事化・中立化を狙ったロシアの作戦が西側の介入により長期化し、①ウクライナ内戦、②ロシア対ウクライナ戦争、③NATO 対ロシアの代理戦争という三つの複合紛争が同時進行していると分析している。内部には宗教的対立が存在し、文明の衝突が起きている。

西側諸国による経済制裁は逆にロシアの軍需経済を強化し、ウクライナの疲弊を招いた。アメリカの分断がこの戦争を生んだと総括し、宗教・経済・歴史・国民感情が複雑に絡む長期紛争の行方を注視すべきだと述べた。

第4回 2025年7月4日（金）

安部悦生明治大学名誉教授を迎え、「EUとイギリスの経済展望」と題する講演を聞いた。

現状、EU 経済の苦境を招く主因として①ウクライナ戦争による戦費とエネルギー危機、②トランプ再登場による関税戦争、③ドイツ経済の失速を挙げた。

ロシアからの天然ガスの停止で、ドイツの製造業は打撃を受けた。さらにEV化の波が自動車産業を揺るがしてドイツ一人勝ちは一人負けの状態となった。EV化で産業構造がハード中心からソフト主導へ転換した。ドイツは、日本と同じようにソフトウェア開発やAI技術で米中に後れを取った。

ハードから知とソフトによる価値創造型経済への転換が不可避であり、日本もこの流れから学ぶべきだと提言。

4. 2 経営と経済をつなぐ研究

最近の経営環境をみると、世界の経済動向や経済指数などを知らずして経営をすることが困難となっている。つまり経営をするには、経済的な知識なしに経営することができなくなっている。

しかし、経営者育成にあたって、いかなる経済情報をみて、経営にどのように反映するかとなると、現状整理が進んでいるとはいえない。知見として整理が進んでいない。その結果、後追いの経営に終始している。

取り組むべき主要な研究課題

主要な研究課題としては、

- （1）外部環境分析（SWOT）として考慮すべき経済情報、
 - （2）中長期経営計画立案時に考慮すべき経済情報、
 - （3）グローバル経営戦略立案時に整理すべき経済情報、
- 等がある。

以上の課題に関連する経済情報を明らかにし、経営にどのような影響を与えているかを

整理して、西河技術経営塾の講義の資料として活用できるようにするため、「経営と経済をつなぐ」と題する研究に取り組む。

メンバー

西河洋一理事長、下斗米秀之明治大学准教授、小平和一郎専務理事。

研究の進め方

- (1) メンバー 西河洋一理事長、下斗米秀之明治大学准教授、小平和一郎専務理事。
- (2) 開催期間 2025年9月～2028年9月末(3年間)、月1回程度開催。
- (3) 研究のゴール 研究成果を単著にまとめる。
- (4) 特別研究員 下斗米秀之明治大学政治経済学部准教授を財団の特別研究員として、研究・調査活動業務を明確にして業務委託契約をする。

第1回 2025年9月26日(金)

一般財団法人アーネスト育成財団内会議室にて、西河洋一理事長、下斗米秀之明治大学政治経済学部専任准教授、小平和一郎専務理事が参加して意見交換をした。

研究目的と背景

- (1) 経営者が経済情報を理解し、経営判断に活かす力を養うことを目的に設立した。
- (2) 経済学の理論よりも「実践的な経済情報」の活用に重点を置く。
- (3) 西河経営哲学・技術経営・経済学の融合を目指す。

経営に必要な経済情報

経済学の理論は必ずしも経営に直結しない。経済動向を捉えることができる講座を新設する。経営と経済をつなぐ知見を講義資料として整理する。

- (1) 外部環境分析(SWOT)に必要な経済指標(GDP、為替、物価、人口動態など)
- (2) 中長期経営計画やグローバル戦略に活用すべき経済情報
- (3) 経営者が学ぶべき「経済情報の分析力」と「未来予測力」
- (4) 経営者にとって重要なのは「明日使える情報」
- (5) 「経済理論」ではなく「経済情報」
- (6) 経済史や国際政治の変化を踏まえた情報分析力
- (7) アメリカ現地レポートなどを通じた最新情報
- (8) 「生産性」と使い方の整理と分析

トランプ政権と国際経済への影響

- (1) トランプの政策は世界経済に大きな影響を与えている
- (2) ステ이블コインや量子金融など新たな金融システムへの動向調査
- (3) 経済現象を歴史的・構造的に捉える視点での分析

5. 広報活動

5. 1 活動報告書（印刷物）の発行

情報紙 Earnest を本年度 3 回発行した。当財団の活動を広報した。

以下、各号の概要を報告する。

Vol. 13 No. 1 (S047) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2025. 1. 31)

インフレ対応で後手になってしまった」(風の時代を読む研究会 第 2 回)

人と人との交流で知識の創生 (新年賀詞交歓会 2025)

お客様を豊かにし、自分たちも豊かになる (西河技術経営塾代々木校 12 期 開塾)

Vol. 13 No. 2 (S048) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2025. 04. 30)

多極化に向かう世界において建設的な役割を果たす (風の時代を読む研究会 第 3 回)

経営学は考え方を変えるための手段 (西河技術経営塾代々木校 12 期 修了式)

実践的経営を平易に学ぶ (西河技術経営塾沼田校 6 期 開塾)

Vol. 13 No. 3 (S049) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2024. 09. 30)

ドイツ、日本と同じくハードからソフトへの転換で遅れ (風の時代を読む研究会第 4 回)

会社が良くなること考える (西河技術経営塾沼田校オープンセミナー)

現場と経営をつなぐ重要性を学ぶ (西河技術経営塾沼田校 6 期 修了式)

5. 2 賀詞交歓会 (令和 6 年)

「新年賀詞交歓会 2025」を令和 7 年 1 月 22 日 (水)「風の時代に生きる」をテーマに帝国ホテル (桜の間) で開催した。80 名が出席した。

西河理事長の「到来を受け、新しい風に乗れる、新しい時代を作ることができる経営リーダーの育成に取り組んで参ります」との挨拶で開幕した。

余興のクイズでは質問に該当する人が登壇し、目標と近況を報告した。

プロ歌手、楠木康平が熱唱

昨年賀詞交歓会で歌声を披露した小椋康平が、演歌歌手、楠木康平として 1 月 15 日にクラウンからデビューした。名づけ親は理事長の西河洋一である。

デビュー曲『北へひとり旅』他全 4 曲を熱唱した。

プロの歌手として夢を実現した若者、楠木康平の姿は若き経営者たちの大きな刺激となった。

5. 3 広告宣伝

芝浦工業大学校友会の賛助広告や日本開発工学会「開発工学」に広告を掲載した。

6. 役員構成と評議員会、理事会、事務局体制

6. 1 役員

- (1) 理事長 西河 洋一 (㈱アーネストワン 代表取締役会長)
- (2) 専務理事 小平 和一郎 (㈱イー・ブランド 21 代表取締役)
- (3) 理事 小坂 哲平 (小坂建設㈱ 代表取締役)
- 松井 美樹 (個人事業主)
- (4) 監事 廣田 令子 (税理士)
- (5) 顧問 吉久保誠一 (元TOTO㈱専務取締役)、平強 (Tazan International CEO)、杉本晴重 (元(株)沖データ代表取締役社長)、山中隆敏 ((株)メディカルパーフェクト代表取締役社長)

6. 2 評議員

- 吉久保 信一 (弁護士)
- 志手 一哉 (芝浦工業大学 教授)
- 下斗米 秀之 (明治大学政治経済学部 准教授)
- 渋谷 加津美 ((株)タムラ製作所)
- 長谷川 一英 ((株)メディカルパーフェクト 代表取締役社長)

6. 3 評議員会の開催

第13回定時評議員会を2024年12月11日(水)、フォーレストテラス明治神宮内「椎」の間にて行った。

- 第1号議案 第12期事業報告<承認>
- 第2号議案 第12期決算報告書<承認>
- 第3号議案 評議委員の選任<決議>
- 第4号議案 理事の選任<決議>
- 第5号議案 第13期事業計画<決議>
- 第6号議案 第13期収支予算書<決議>
- 第7号議案 評議員、理事及び監事の報酬の額<決議>
- 第8号議案 議事録署名人の選任<決議>
- 理事会決議 顧問の選任、顧問の報酬額<報告>

6. 4 理事会の開催

以下の理事会を開催した。

(1) 第105回理事会 (2024年10月) 2024年10月09日

- 第1号議案 前回議事録、第104回理事会(2024年09月11日)の確認
- 第2号議案 2024年9月度決算の報告
- 第3号議案 西河技術経営塾(代々木校:第12期)開塾の報告
- 第4号議案 西河技術経営塾講師養成研究会の報告

第 5 号議案 評議委員会に向けて

第 6 号議案 Earnest（S46：9 月 30 日号）の企画の報告

（ 2 ） 第 106 回理事会（2024 年 11 月） 2024 年 11 月 13 日

第 1 号議案 前回議事録、第 105 回理事会（2024 年 10 月 09 日）の確認

第 2 号議案 第 13 期（2024 年度）事業計画（案）の承認

第 3 号議案 第 12 期（2023 年度）収支予実管理（決算）の承認

第 4 号議案 第 13 期（2024 年度）予算（案）の承認

第 5 号議案 定時評議員会議案書の承認

第 6 号議案 次回の理事会、評議員会の確認

（ 3 ） 第 107 回理事会（2024 年 12 月） 2024 年 12 月 11 日

第 1 号議案 理事長および専務理事の選任

第 2 号議案 顧問の報酬の額

（ 4 ） 第 108 回 理事会（2025 年 01 月） 2025 年 01 月 08 日

第 1 号議案 前回議事録の確認（第 106 回理事会、定例評議員会、第 107 回理事会）

第 2 号議案 2024 年 10 月度、11 月度および 12 月度の決算

第 3 号議案 「風の時代を読む」と題する研究会（第 3 回）企画の報告

第 4 号議案 定例評議委員会の報告

第 5 号議案 2025 年賀詞交換会の企画の報告

（ 5 ） 第 109 回 理事会（2025 年 03 月） 2025 年 03 月 12 日

第 1 号議案 前回議事録の確認（第 108 回理事会）

第 2 号議案 2025 年 1 月度、2 月度の決算

第 3 号議案 「風の時代を読む」と題する研究会（第 3 回）企画の報告

第 4 号議案 2025 年賀詞交歓会の報告

（ 6 ） 第 110 回 理事会（2025 年 04 月） 2025 年 04 月 09 日

第 1 号議案 前回議事録の確認（第 109 回理事会）

第 2 号議案 2025 年 3 月度の決算

第 3 号議案 風の時代を読む研究会（第 4 回）企画の報告

（ 7 ） 第 111 回 理事会（2025 年 05 月） 2025 年 05 月 11 日

第 1 号議案 前回議事録の確認（第 110 回理事会）

第 2 号議案 2025 年 4 月度の決算

（ 8 ） 第 112 回 理事会（2025 年 06 月） 2025 年 06 月 11 日

第 1 号議案 前回議事録の確認（第 111 回理事会）

第2号議案 2025年5年度の決算

(9) 第113回 理事会(2025年09月) 2025年09月10日

第1号議案 前回議事録の確認(第112回理事会)

第2号議案 2025年6月度、7月度および8月度の決算

第3号議案 西河技術経営塾(沼田校:第6期)修了の報告

第4号議案 西河技術経営塾(代々木校:第13期)入塾希望者の報告

第5号議案 敬愛大学寄付講座修了の報告

第6号議案 経営と経済をつなぐ研究会の設立の決議

第7号議案 第31回 技術経営人財育成セミナー開催の決議

6. 5 事務局体制

事務局体制について報告する。

(1) 事務局体制

松井美樹、渋谷加津美の2名体制で運営した。

(2) 定例事務局会議

小平専務理事、松井、渋谷で事務局会議を毎月 第1週の金曜日 14:00 から財団で定例的に開催した。2024年10月から2025年09月までの間に12回開催した。

7. 外部団体との連携

下記の団体との連携に取り組んだ。

(1) 敬愛大学(三幣利夫 理事長)で寄付講座第7期(百万円寄付)に取り組んだ。

(2) 一般社団法人日本開発工学会(佐藤一弘会長)法人会員。研究会活動に協賛企業となり協賛金を寄付、事務所の提供、活動支援などを行った。

(3) 芝浦工業大学 MOT 同窓会支部(西河洋一支部長)、活動支援などに取り組んだ。

(4) 一般社団法人アフリカ協会(松浦晃一郎会長)の法人会員である。当財団の顧問の浅野昌宏が副理事長に就任している。

以上